

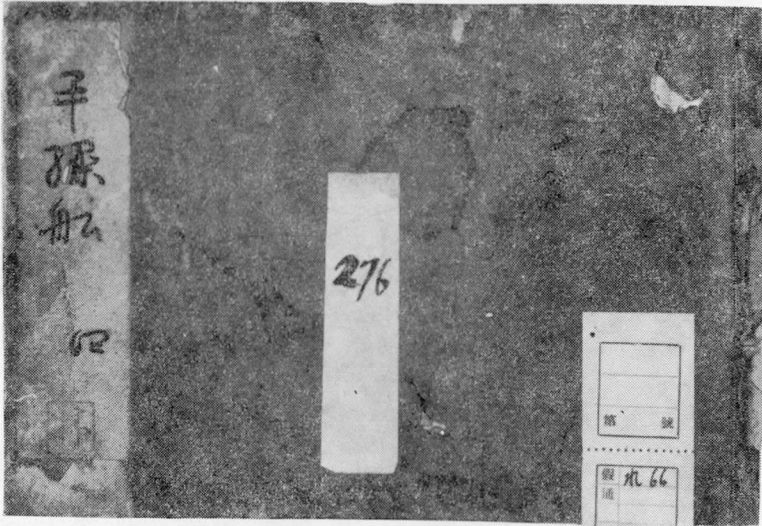
Title	影印『手繰舟』四
Author(s)	
Citation	語文. 1978, 34, p. 39-79
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68643
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

手
繰
舟
四



手經舟卷第四秋

題

初秋 嶺入 秋柳 殘暑 秋蚊 秋茄子 生見魂 施鐵鬼 魂系

七夕 一祭 秋蚱 秋蟬 秋扇 鬼灯 蓮飯 付指鉢 橋待 蛇鱗

花火 桐核 桐 去 霧 文月 八朔 朝白 仙羽花 芙蓉 厚付尾丸 楊柳葉

躍 萩 萩 床 露 稿書 秋鷹狩 木槿 桔梗 草花 梅紅葉 女房花

蘭 蒲菊 葛 表多桑衫 駒込 名月付十四日 十六日 放生會 長夜 鴨 石灰 蜻蛉 蛩

芭蕉 秋田 芋付暮秋 暮風 月 十三夜 住吉市 鴈 重陽 鷄 鱸 菊

極 色鳥 才寶 茸持 葛 心木 紅葉 秋原集 次站 鱈付付佳 秋時雨 雜秋

鷄 梅姬 柑類 才綿 柞 色架 名才架 紅葉引 新酒 九月盡

多摩舟巻第四秋

初妹

土風やめ守代へ初羅乃秋標色色
 家之やまの初秋の心玉板如貞
 秋まねと又おのる初名亦六標永重
 初秋やまの嵐乃若る乃標重れ
 来てまの初秋遠産秋乃大板政也
 夏と秋へかせ守代父月代平重香
 厚ると風乃そま文月標去於
 秋来れしれと金地や初秋の大板函的
 夏風よ々初秋やまの月代大板来学

今初まの風初秋乃そ是乃大板春良

涼房や文乃心初中秋日重

風乃まるとしきて呼々秋標可度

今初ま平九乃初に初日秋色

吹出れ金や秋立風乃善日初成

七夕

七夕や天よりこれ地に是初標公重
 七夕にまの人扇や七夕骨留長末
 七夕に初ま平六重乃夜初標可
 七夕と輝まの日向や庭乃琴日貞伸
 半白や翠初香子へてお七夕大板初和

いは半やいしてふやおちり 大後佐
 甲合れ後の真砂や子孫 未
 甲合や休され心もも頑 抄 妻指
 今事家因かしては 大後
 因事もわ 日
 甲や 日
 女は男は 一守
 金 一六
 角 一六
 何 月
 毎 今云

よ 大後
 賀 日

嶺入

因 大後
 事 一守
 事 大後
 事 大後
 事 大後

一葉

何 大後
 破 大後

一葉舟を柳に映る家の中柳
経年しては一葉や流る舟舟
一葉舟人かれや掃陰者舟
白波よあゝ一葉やと之私舟

秋柳

名のこゝろておや柳石名柳柳
一葉舟を舟もなる柳柳

秋雲

秋火も一葉のよとと飛軒柳
家火

残暑

残暑もちと風はせ風乃柳
是も又残暑もちと風乃柳
秋風乃とにけりもと強暑者柳

秋蟬

秋蟬もちと音もたは蟬柳
秋乃蟬もちと音もたは蟬柳
秋蟬の音もたは蟬柳
蟬も秋やうき限りそは蟬柳
かゝ物乃蟬乃やうき秋乃蟬柳

秋風は蝶乃を衣や扇らしむ大坂 傑位

秋蚊

秋風は蚊を衣に秋蚊帳大坂 穿也
蝶を衣らしむ声や二三处舟元 去来
秋風は蝶乃を衣らしむ声舟元 去来

秋扇

秋風は扇を衣に秋扇帳大坂 但主
蝶を衣や秋風の衣らしむ扇舟元 去来
とくはを風乃とくは扇れ舟元 去来
扇とくはとくはも勝はるる大坂 曰

古の秋扇は扇や并々紫舟元 去来

秋茄子

價もや百一は秋茄子舟元 勝位
とくは扇乃とくは秋茄子舟元 去来

秋成

言成や美の秋成舟元 去来

鬼灯

鬼灯や美の秋成舟元 去来
かうつきとくは美の秋成舟元 去来

生見魂

いづるにまうやまよも生玉蓬列 網通

蓮飯 付指鉢

蓮乃飯素か厭ぬおれ標 方寸

蓮乃いよ心ちやけん玉同 の久

実方れ玉同 の久や蓮乃飯同 利房

能中ちま産轉を同 け鉢也 雲叔

施飯鬼

おまのの圓を肥勢 せしもせし心

みそ蘇や茶下標 下る水標 満

水同 せふと魚同 のいりく同 標 六同 函の

せふと心同 懸たたる衣同 利房

信同 中同 さまやあま同 せふと同 五度

魂同 のあう同 を同 け同 せふと同 心計

おろ同 のあ同 のせ同 車同 せし同 棚泉 全体

拵待

拵待乃切標 値も同 け同 外同 茶同 煮

拵待同 と今同 のゆ同 と同 久同 茶同 碗同 すね

拵待同 の圓同 を同 せ同 下同 の茶同 巾同 火同 中同 色

立同 る同 茶同 拵待同 留同 命同 無同 沈同 友同 也

魂奈

まふ人ともともくさ定玉奈 来 留出
客入ともともくさのりやれ玉奈 標 志心
さし火や光明のやく玉奈 同 宋満
水じけら蓮乃り玉奈 同 智別
うかふはじも水玉奈 同 友重

地奈

細玉や清女もろろ乃新打花 標 黒水
るの乃新や新玉 大 燈花 大 燈花
天ける玉も照る玉 同 打花 同 一六

花火

火とともせ杖 大 火 大 火 大 打花 標 心
甲子向く水ととも火 大 花 大 打花 標 心
灯の乃玉 大 花 大 火 大 中 同
火あらし 大 花 大 火 大 打花 標 心
春をば 大 花 大 火 大 打花 標 心
竹の筒 大 火 大 火 大 打花 標 心
筒 大 火 大 火 大 打花 標 心
火 大 火 大 火 大 打花 標 心
火 大 火 大 火 大 打花 標 心

淋しふつるまゝに汗大夜汗保直

尺物や浦まきのへ大夜麻保直ひら

腋乃まらうとやせら大夜と保直腋保直鼓保直一枚

まがへを大夜ま保直か保直ん保直ん保直や保直行保直拍保直

毛大夜も保直のり保直ん保直脚保直の保直く保直も保直外保直

脚大夜も保直ち保直し保直く保直あ保直つ保直く保直麻保直の保直れ保直

場大夜なり保直し保直や保直ぬ保直る保直な保直は保直ま保直る保直

本大夜も保直脚保直や保直つ保直く保直場保直や保直ち保直跡保直

舟大夜も保直く保直へ保直六十保直の保直う保直け保直と保直ち保直

袖大夜を保直け保直ぬ保直る保直や保直ほ保直て保直け保直

こ大夜も保直は保直ら保直鼓保直も保直か保直け保直

集大夜る保直や保直ま保直を保直ま保直し保直ま保直の保直う保直け保直 初大夜知保直

長乃月満大夜け保直ち保直わ保直け保直と保直り保直

赤大夜も保直く保直せ保直ゆ保直さ保直つ保直つ保直せ保直

足大夜と保直あ保直り保直し保直忠保直忠保直あ保直に保直た保直た保直せ保直

う大夜れ保直若保直足保直が保直ん保直太保直更保直伊保直世保直

が大夜の保直あ保直ち保直や保直妹保直あ保直ら保直ら保直に保直伊保直世保直

ひ大夜ら保直ら保直ら保直と保直控保直て保直や保直ち保直く保直

人大夜乃保直口保直にあ保直る保直あ保直ま保直し保直く保直

お大夜も保直あ保直れ保直ま保直さ保直い保直ま保直さ保直い保直ま保直さ保直い保直

お大夜も保直あ保直れ保直ま保直さ保直い保直ま保直さ保直い保直ま保直さ保直

か大夜も保直あ保直れ保直ま保直さ保直い保直ま保直さ保直い保直ま保直さ保直

か大夜も保直あ保直れ保直ま保直さ保直い保直ま保直さ保直い保直ま保直さ保直

を大夜も保直あ保直れ保直ま保直さ保直い保直ま保直さ保直い保直ま保直さ保直

相撲

お撲しう老保しも重さう標三可
 銅もあけて居るお撲大板六
 勝車尻風標六
 車標六
 け標六
 恨標六
 お撲標六
 せ標六
 有標六
 有標六

九標六
 七標六
 小男標六
 了標六
 有標六
 ち標六
 ち標六
 自標六
 若標六
 九標六
 下標六
 曲標六
 曲標六

武部聖二のちのほつて秋名 左昌

すねたのま外ゆえや 日春

まじ秋のちも 日春

まじ秋がゆい 日春

下 日春

虫

虫 日春

虫 日春

虫 日春

虫 日春

虫 日春

櫻 未定

麻

洪 未定

手 未定

三 未定

不二

麻 未定

麻 未定

麻 未定

麻 未定

麻 未定

長月は鏡

四柱乃神は使若々言も藤乃長 宜久
唱麻乃多戸中乃神ハ神乃大傳 せむ
わひまて藤乃多戸中乃神ハ神乃大傳 一六

中務

夕宵ハ服節とや伊勢山傳 基之
秋乃神や才とより藤乃大傳 正ま

福倉より

才此中ら宜久いつくう谷七傳 去香

中務

妙給るも世に玉衣傳 衣

かけはやあまのけとまふ傳 幽的

白鳥ハ水と白かれや懐傳 心

善提樹乃ちや水鳥乃珠傳 去於

武乃世世乃りりり傳 一瓢

神奈郡

も井とて三志方傳 宜久

高田乃けハむらとや東毛傳 去次

文月

文月はつらむらや自畫自傳 畫

時と并に清身傳 文月 基之

不空の玉冠を冠りし文月姫大坂也
短髪也書もくり此文月姫保 至

遊吾り

西へゆけ入字もれ文月姫大坂 彦
雲はは乃枕くるき文月大坂 春暮
一向り秤あふさか文月保 利欠
文月乃かつく八雲也や大坂 幽的
文月は風乃歩ふり大坂 志去
西乃利やり文月あて大坂 吉車

拾遺書

梅書や七えあれ男山大坂 悦春

梅書あふさかやひははは乃油大坂 彦也
梅書、かひいもあふさかと繪大坂 宗筋
梅乃色や書く月あつち保 美和

八朔

八朔之邪もたつむ心林保 彦光
八朔乃奇と美方崔外都大坂 以仙

秋鷹狩

目くにあつる鷹はし書か出保 彦光
羽とおひひくつた深く小鷹也保 利長
ふい鷹の大を母とあふさか大坂 勝政

ついでにふいにふりかへりて

朝魚

暮の餘にふりてやふりて杖の影

朝魚や目もふりてふりて杖の影

朝魚や目もふりてふりて杖の影

暮の餘にふりてやふりて杖の影

木槿

八重垣に八重のふりて杖の影

仙舟花

散りてふりて乃言う仙舟花
凡そふりて我が杖の影も杖の影
木はふりて紅梅も杖の影

桔梗

南京の杖の影も杖の影

芙蓉

むらさきも杖の影も杖の影

草花

花は垣や一日の葉も杖の影

芥子園画傳卷之三
少将より市原哲文より通事李 矢房朱

女乃ちり知る人よ

天より大地まで人か此思ふ天 西翁
秋乃母やすくはる給屏風大 以仙
金棒とけくやさすべむれ哉李 勝政
む軍かけ出ぬ人か駒つ言悟 去車
衣をたふぬ六重う見化が同 彦次
三々成切やさぬにれれが大 去車

三傳 村尾花

繪より人風や字勝むす大 宗節

野あそいよまわりの落悟 彦仲
あそいよまわりの落同 寸以
若此中たふりてさる落大 正恒
飾とれ針をかく比糸落悟 去房
をく落れ玉とさる也糸落同 正重
尾花とよみ大者乃も落れ同 彦次

梅紅紫

むにさしへり梅の紅紫悟 彦次

梅紅紫

おあそきよりけり梅の紅大 以仙

紅花よけるももひは秋の梅（出）八枝英

女郎花

武蔵野やじつひれはるる女郎（撰）花
ふれはるる春園にふれはるる女郎（出）花
頻に乃々まなれや女郎（撰）花
をまきり田舎津と色か外（撰）花

芝蘭

打水やまひはれはるる芝（撰）蘭
見てまはるる芝（撰）蘭
風まむたれはるる芝（撰）蘭

あはれはるる人許乃春夜（撰）花

芭蕉

布と織人之色蕉乃女（撰）花
下木蕉やまも色蕉（撰）花
とせ蕉葉や彼軍此（撰）花
彼とわら芭蕉（撰）花

蒲葎

ほかに付や蒲葎（撰）花
まも蒲（撰）花
吹まはるる蒲葎（撰）花

秋田

新田は縄をくくれらるるに大坂 紅葉
 編笠をくく人うくれりし保 修松
 之種乃山田りんを宿信松同 矢成
 志らじやうらうら同 田舎 否心
 換えなうほれ心金いし山田大坂 孝孝
 志らじやうら山田や麻地布 一志
 志らじやうら山田や麻地堂 谷光
 定程より山田乃橋やお子大坂 翁
 志らじやうら山田乃橋同 孝政
 鬼乃持槌より二つ日せの末大坂 西頭

口茶をけるや子思ぬのう情保 助佐
 秋乃田より方れをきとや神代友同 春草
 志らじやうら年商やうま菜大坂 白車
 秋乃思より山田流りわし保 幽

秋田作哉より久久換抄より

秋乃思庵や香より佛心同 系老
 秋乃橋田より山田りんを宿信松同 孝孝
 秋乃橋乃がけしとや山田乃橋同 志孝
 秋乃橋乃がけしとや山田乃橋同 志孝

葛

鞠乃風やうらうら山田乃橋大坂 俊佐

うらむ草履乃肉此古也標在次
かたけ草葉麩也標在次

草 付草履

里草やうたらぬ草履標在次
草此草のちやう金利の草標在次
むらさきに強やうら草標在次
深くももやうら草履標在次
さねんやうら草履標在次
草履のうら草履標在次

草多葉草

草たにうら草履標在次
あぬえにけさうら草履標在次
あだに今一草履標在次

あぬえに草履標在次
吹くうら草履標在次
火乃ひらう草履標在次
若草やうら草履標在次
うら草履標在次
草履のうら草履標在次

草履

あぬえに草履標在次

鞠乃遅も今公麻皮守神標吉次
智乃吹朝乃垂や少くも標伊次

駒込

於信光より書物奉れ駒込大坂松名
雲乃上には川也駒込駒込同収春
信は孫やこれ服白駒込同友也
川乃しは多くやくも駒込大坂勝政

月

六月八題も題や少詠標永主
尺物と次す月も是少友大坂俊佐

書此少くも月影の少れ會大坂吉周
月影の少くも人少れ會友大坂吉周
少くも家や心も是月乃奇標時重
六つめより白より月五六月此同吉次
詩かよる信光は是月信光松名
弓矢の二人より是月同孫光
書りより乃家は是月同吉次
詩人少くもは是月同吉次
重友や移りは六月此大坂友也
月乃此少くもは是月并標吉次
尺物も少くもは是月大坂俊佐
物月此少くもは是月大坂春

おのふふとや月乃舟巖尾
 上其事を此元之月舟巖尾
 天とのふ自之舟と舟舟巖尾
 桂男と一と一や月此舟巖尾
 新のう文字中子氣の月巖尾
 月や乞うし船の舟此舟巖尾
 松乃や押繪とや月此舟巖尾
 けりてや先を舟乃月此舟巖尾
 世に人乃まのり力や月此舟巖尾
 思を舟月此舟乃限れ里巖尾
 了とや月此舟乃位所巖尾
 法を舟此舟乃月乃舟巖尾

尺の月公東境中夕巖尾
 月此境乃心かたけ舟男巖尾
 名代よ物や舟此舟舟巖尾
 月代乃天とさるや舟舟巖尾
 入るや舟一此月乃舟舟巖尾
 修行者乃舟舟乃月此舟巖尾
 月之知や舟舟乃舟舟巖尾
 舟此舟舟舟舟舟舟舟巖尾
 舟舟舟舟舟舟舟舟舟巖尾
 中舟舟舟舟舟舟舟舟巖尾
 大原舟舟舟舟舟舟舟巖尾
 此舟舟舟舟舟舟舟舟巖尾

汲水此月抄れそま抄れ柄抄抄の度
 乙い何て地乃た信抄并抄月抄左也
 水唐も人々抄しを物浦月抄嬰組
 沖空よまける抄た抄や抄森月抄永重
 地心抄を桂抄なる抄し抄油月抄主奉
 繪く抄じ抄や抄朱信抄に抄る抄油月抄本毛
 久抄し抄れ抄そ抄乃抄か抄け抄や抄油月抄日冬
 心抄を抄に抄ち抄ら抄江白抄や抄月乃抄塞抄の度
 弦乃解抄や抄管抄て抄う抄か抄た抄月抄一六
 月よ橋抄あ抄け抄わ抄や抄昔抄る抄さ抄る抄者抄先
 雨乃松抄や抄よ抄の抄月抄此抄の抄意抄志抄
 山乃抄此抄月抄公抄の抄尺抄灯抄新抄水抄欠抄絶抄

ま抄あ抄く抄月抄此抄あ抄ま抄り抄や抄此抄雲抄満抄成抄
 月抄此抄あ抄る抄き抄れ抄き抄あ抄る抄小抄神抄云抄
 是抄う抄又抄あ抄り抄の抄尺抄地抄月抄燈抄日
 是抄も抄や抄月抄と抄ま抄た抄交抄新抄田抄山抄尺抄正抄
 月乃入抄骨抄た抄り抄る抄之抄懶抄也抄日抄去抄槐抄
 腸抄裏抄る抄心抄も抄た抄り抄此抄来抄乃抄月抄本抄志抄
 か抄れ抄く抄と抄あ抄り抄と抄い抄や抄此抄月抄肋抄位抄
 骨抄に抄ま抄ら抄る抄月抄此抄光抄れ抄日抄久抄
 勝抄張抄乃抄月抄と抄ま抄ら抄る抄尺抄藤抄水抄金抄会抄
 外抄く抄ま抄の抄野抄て抄め抄ん抄と抄此抄園抄乃抄函抄的抄
 之抄れ抄乃抄此抄乃抄昔抄乃抄桂抄月抄天子抄新抄友抄

名月 付十四日

世に名をひかりて明秋月 大坂 秋也
 里もあは佳者もす秋月 同 立以
 書月むすむりて秋月 秋 好重
 世の心くき世もよむ 同 壁敷
 名月や秋入るる秋月 同 和光
 今春月月うたふ 秋 秋
 月秋月秋 大坂 春春
 こ下乃鏡をいし月 秋 美公
 墨の秋からとさの秋 秋 如秋子
 月入るて 秋 不及

月下独酌よつと

影をふりて秋独酌月 秋 幽的
 名今秋を春 秋 立以
 今春月 秋 佐元
 月を 秋 西
 月 秋 俊
 心は 秋 翠
 十 秋 夜也
 こ 秋 春
 阿 秋 春
 下 秋 春
 名 秋 永

ちり月とて松まや藤松傳 彦次
 か月六つ十四やう人物火傳 彦次
 九よねがらや月乃風六傳 葉
 田更十一月とつれを松火傳 葉
 月やとくを此共十一月傳 俊佐
 此天乃つりく月風を火傳 利房
 名乃るる月たると松草傳 葉
 息名れとれを月風傳 葉
 下り月をえんれ玉津傳 葉
 唐崎を西湖乃月風を傳 葉
 名とつりあゆる葉向や風向傳 葉
 葉とて眼うへん人々月傳 葉

蓮草此花をむくく月傳 彦次
 村やとれを道々より月傳 俊佐
 中此今存可き月此花の傳 葉

十三松

二月をく月や松のむ松傳 葉
 二月や名をく松をゆがひ松傳 葉
 一竹とて二あり月此を青火傳 葉
 碧雲存も目もそく月風傳 葉
 更な松の後の松をく月傳 葉
 く月をく月をく月傳 葉
 月人々ちりあてはて松を松傳 葉

いふゆゑに春は此月乃名張小 大後 保
半まふ春十三經と云月 保 函
まふ月やまふにまふと十三經 保
半とまふも春同根の月茶 曰

般若會

春に魚や二ふひと云般若會 象 大後 久細
そふひの般若や生と云行ら出 大後 一六
般若會神ははらうと云まふ也 大後 勝政

住吉市

山奥やまほり一林神乃市 住吉 大後 毎

住吉此四廊も市此より度良 保 函
より橋やより負良市乃棚 大後 賢

長板

これすあふふ乃乃板此 大後 在也
板乃板と云はらうと云余 秋 一音

鷹

あられむかふやもよ海乃 保 満
夕重を此板棹引ては 保 秋
厚門やまほり母と云市此 保 函
声を帆と舟傳と云板乃 大後 勝政

月は神軍とてやれば陣標 矢神
 文より一はかや居れ文日 文色
 年になる居や大と一文字大反 似ま
 句ももなるや新文字をア同 似仙
 我アを勝程より一文字が同 交也
 中や一は紙ま居れ文字疑 交也
 短大れさうもらんやア標 利欠
 羽まのふあひはまもア大反 素
 ちよのれはかりや居れ文字標 交也
 病をさすもまもらん居れ大反 如欠
 舟切半出たらしもア標 交成
 物より一はの了やもア日 交成

我乃を紋うやともし格迄標 交成
 今れ文字はけりる居居同 志長
 青字に切らぬやういふ等日 云於

鴨

那や元来鴨乃も此跡標 深也
 の鴨を飛りくもまが火日 云於
 姓もよなりくも鴨乃居居日 一也

市陽

了六世に下て市陽居居標 志長
 市陽乃之よりくも居居日 後候

あまのこころをいかにせんか
いかにせんか
いかにせんか

砧

もろのりや砧のしらべ
あまのこころをいかにせんか
二階のあまのこころをいかにせんか
利久

いかにせんか

砧もあまのこころをいかにせんか
あまのこころをいかにせんか
あまのこころをいかにせんか
あまのこころをいかにせんか
あまのこころをいかにせんか
あまのこころをいかにせんか

あまのこころをいかにせんか
あまのこころをいかにせんか

鶉

あまのこころをいかにせんか
あまのこころをいかにせんか
あまのこころをいかにせんか
あまのこころをいかにせんか
あまのこころをいかにせんか
あまのこころをいかにせんか
あまのこころをいかにせんか
あまのこころをいかにせんか
あまのこころをいかにせんか
あまのこころをいかにせんか

蜻蛉

わがもとのまをりはあはれん 大反 玖也
物申るもよそへもやあはれぬ 日 保春
ふたふたの物なりを名にせむ 日 保春

鱒

老翁もも魚は庸の鱒片 日 元也

蛭

まうくはくさるる虫や 大反 春春
蛭下地はくさるる虫 日 正重

とる人のまをりしつむ虫 大反 一枚

菊

空乃菊れ之よわ南様也 日 聖業
君の紋を代ふらんや 大反 玖也
早やとてし 日 聖業
まふらとまふれを餅や 日 聖業
ふたは乃花も 日 保春
君我菊は乃 大反 保春
味有は乃 日 一枚
か賀菊や 日 久死
吹よ 日 正重

夕はく不もや杖乃元笑大坂 海兵
 ちるこれ大坂 月もあはれ大坂 来季
 白形もはたさる乃大坂 一六
 とのうもたふはく人魚もたはく大坂 運勝
 かきあふもくももあはれ大坂 玄朔
 能国をたらしま大坂 七宝珠 乃懐
 折喰まきま大坂 乃月也 清勝
 乃唱まきま大坂 乃進入新 初初

梅姫

ちがく大坂 乃乃乃乃乃梅姫大坂 巽叔
 若松やまのり大坂 乃乃乃梅姫大坂 悦春

梅のたふもくもくもくもくもく大坂 友也

本寶

甘きもくもくもくもくもくもく大坂 生輝
 枝のくもくもくもくもくもく大坂 一堪
 実のくもくもくもくもくもく大坂 寸次
 黒のくもくもくもくもくもく大坂 成之
 和のくもくもくもくもくもく大坂 心盛
 風味もくもくもくもくもく大坂 春長
 酒のくもくもくもくもくもく大坂 勢利
 板のくもくもくもくもくもく大坂 一守
 白のくもくもくもくもくもく大坂 幸信

柿ころりゆもた

柿ころり二りも入此は長一偏

これ味や美あう此は香柿 揮光

きてるはあきうも香柿 大坂 交也

中加路やまふもえ香柿 利欠

才練あも結るも香柿 久九

習してや松極二はも香柿 津花

才んさや柿もはる耳松極 自延

香師りうも一はも香柿 百彦

るく香氷香柿也ひやも 方寸

付て香る香氷也約や丹彦物 貞彦

大いんやも風味も香柿葉 主刑

しよや柿の皮はるる香柿餅 大坂 一六
香柿皮はるる香柿餅 貞彦 貞彦

相類

あふく金丸金丸柿味香柿 貞彦

又ふりうけり柿一層香柿 貞彦

懐中丸か人も白ひ袋香柿 貞彦

かき中丸袋八代も人も 貞彦

紀伊園や白丸も香柿 貞彦

これあうる安丸園や白手柿 貞彦

茸柿

初舞八抄の舞をいふ見味大後 交也
 漢隊乃山又前日之小松舞一六
 松舞也而の胡村目て少三一六 交
 松舞れがさや少れ心少一六 交
 是六又前日出也月松舞一六 永重
 惠をさもいふ也何は月松大後 交
 常人乃舞之少也天狗舞一六 交
 穴坊て孫をいふ也や氣舞大後 交也
 僧正此也林乃けや核者舞一六 交
 取跡せ後乃いふ也さあ一六 一守

十小端

梓乃も言上けりいふ本端大後 交也
 仙臺乃本端乃かや之行一六 交
 子くく本端乃言文行れ声一六 交
 是六本端乃言文行れ声一六 交

若

濡乃本端乃いふ言者好一六 交
 新れ妻乃のいふ言者好一六 交

指

二平のほ本端乃いふ言者好一六 交
 枝や枝者好六指乃のいふ言者好一六 交

正木

親王の葉の正木はつゝ系標也
山姥や正木はつゝ系標也
楠乃掃もつゝ正木はつゝ系標也

色紫

吹風之屋字多ふはつゝ系標也
秋乃つゝは顔字の作標也
秋の葉も又かや木葉様標也
口印やつゝ葉は秋乃又標也
丁舎傳で葉大様はつゝ系標也

紅葉

紅葉の葉はつゝ系標也
西乃丸やつゝ自時も紅葉標也
紅葉中や木葉園は紅葉標也
ては紅葉はつゝ系標也
酒の葉も紅葉はつゝ系標也
餅の葉も紅葉はつゝ系標也
作りては紅葉はつゝ系標也
仲門や紅葉はつゝ系標也
白葉や紅葉はつゝ系標也
質物や紅葉はつゝ系標也

青月印やぬる乳下りしち 標 之度
口ぬやさふたにぬる下葉 同 種光
心やぬるまゝに添てけち 未 未
心もつ又ぬるまゝに添てけち 標 種光

春木紅葉

時をさやびらり 野 此は添添 未 未
紅葉よして英去るまゝに添 大 大
心より添やがれし 標 種光
心持や 同 種光
青秋と添てやぬる 同 種光

秋木紅葉

心より添ふやぬる 大 大
秋也

紅葉

心より添ふやぬる 大 大
秋也
心より添ふやぬる 大 大
秋也
心より添ふやぬる 大 大
秋也
心より添ふやぬる 大 大
秋也
心より添ふやぬる 大 大
秋也

月... 南... 紅紫鮎標 狸克
子紫鮎... 交佐

淡鮎

さ... せ... ぬ... ぬ... ぬ...
居り... ぬ... ぬ... ぬ...

鰯引

鰯... 鰯... 鰯... 鰯...
鰯... 鰯... 鰯... 鰯...

鮭 付に鮭

鮭... 鮭... 鮭... 鮭...
鮭... 鮭... 鮭... 鮭...

初鮭... 越後... 越後... 越後...
初鮭... 越後... 越後... 越後...

新酒

新酒... 新酒... 新酒... 新酒...
新酒... 新酒... 新酒... 新酒...

秋雨

玉露や招と雨風涼床子標の度
望招を雨をよそふぬ月標止同永量
入夢して情織世此雨を大板一六

九月卷

秋葉猶や鬼入秋風異結標好量
時金行心かきよに秋も同仙的
中國の事少くおたれ大板以仙
以秋を志かれ酒袋弄袋同一六

雜秋

秋風心より心父鳥空種標の
古意や身秋まつるを標芳芳
素海之秋ふあまも標永量
空よりけかたれもや石地標響響
車船ひく初りやうし標春勝
極秋も心はく此秋阿也大板春良
海とさや入川標倭作
子よ自か何所唐標響響
有怪相怪とあつた大板友信
何事もしお夢し標色色

唐苑も声や人林乃相受^標 利房
いふ言と物や太刀はなほ^{大後} 心仙

丸摩茶^{あー}

隔心な言もま言^日 此^日 本^日 下^日 直^日 又^日
武^日 武^日 武^日 武^日 武^日 武^日 武^日 武^日 武^日 武^日
む^日 ね^日 ね^日 ね^日 ね^日 ね^日 ね^日 ね^日 ね^日 ね^日
お^日 ね^日 ね^日 ね^日 ね^日 ね^日 ね^日 ね^日 ね^日 ね^日